



会長 楠 英夫 幹事 楢戸 憲一

- 例会場 L'AUBE kasumigaura
TEL.029-875-8888
- 例会日時 火曜日 12:30~13:30
- 事務局 土浦市真鍋1-2-6 金塚ビル3F
TEL 029-823-4524 FAX 029-869-9006
- ホームページ <http://tsuchiura-south-rc.com>
- Eメール t_minami@lapis.plala.or.jp

2023~2024年度
国際ロータリーテーマ



世界に希望を生み出そう

2024年5月14日 39号
2024年5月7日 第1例会報告



地区 HP



地区行事予定

- | | | | |
|----------------------------------|---------|-------------------------------|-------------------|
| 1. 点 鐘 | 楠英夫会長 | 7. 委員会報告 | |
| 2. 国歌及びロータリーソング斉唱
(君が代・奉仕の理想) | | 8. ニコニコ BOX の発表 | 吉田正一副 S A A |
| 3. 会長挨拶 | 楠英夫会長 | 9. 会員卓話 | 稲本修一会員 |
| 4. 米山記念奨学生紹介及び奨学金授与 | | 10. 出席状況報告 | 出席委員会 |
| | 楠英夫会長 | 11. 点 鐘 | 楠英夫会長 |
| 5. 幹事報告 | 楢戸憲一幹事 | 12. ロータリーソング斉唱
(それこそロータリー) | |
| 6. 5月お誕生日の会員及び配偶者のご紹介 | 親睦活動委員会 | | (司会進行：山口裕由 S A A) |

本日のプログラム

海老原一郎ロータリー情報委員長の卓話でございます。

次週のプログラム

5月21日(火)の例会は、前川和樹会員の新会員卓話でございます。

出席状況

会員数	出席数	出席免除	出席率	全員出席卓	3名以上欠席卓	メイクアップ	出席率訂正
名	名	名	%	卓	卓	名	%
87	60	7	70.24	1・2・4・6 7・10・13	15・17・18	5	76.47

【会長挨拶】

楠 英 夫 会 長



皆さんこんにちは。

ゴールデンウィークは楽しい時間を過ごせましたか？

これから夏の猛暑がやってきます。暑い季節は体調管理に気を配ることが重要です。猛暑が予想される今年の夏、熱中症やその他の健康リスクに備えて、早めの準備を始めましょう。適切な水分補給や適度な休息、涼しい場所での過ごし方など、暑さ対策をしっかりと整えておくことが必要です。

さらに、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に指定されてから1年が経ちました。この1年間、それなりに様々な制限や対策を取りながら日常生活を送ってきましたが、未だに感染者が多く発生しています。特に人が密集する場所では感染リスクが高まるため、引き続き感染予防対策をする必要があります。密集でのマスクの着用、手洗い・消毒などの基本的な対策を実践し、感染しないように心がけましょう。

一方で、地震や豪雨などの自然災害も懸念されます。日本各地と台湾で震度5を超える地震が相次いで発生しています。復興に向けて全力で取り組んでいますが、被災地域の方々が未だに困難な状況に置かれています。被災地域の早期復旧と、被災者の方々が安心して普通の生活を取り戻せることを心から願っています。皆様には被災地域への義援金にご協力いただきありがとうございます。

さて、5月は、「青少年奉仕月間」となっています。青少年の育成や支援は、地域社会への貢献の重要な一環です。土浦南ロータリークラブでは、ローターアクトクラブとインターアクトクラブの両方を提唱しており若者たちがリーダーシップや奉仕の精神を育み、地域社会に貢献できる力を身につけることを目指しています。

地区ではローターアクトクラブは、次年度より青少年奉仕委員会から独立し、ローターアクトクラブ委員会となります。土浦南ローターアクトクラブの人数は現在1名です。しっかりとした組織、活動を行うには人数の増強が必要です。35歳以下の若者が身近におられましたら是非ご紹介ください。青少年支援活動は、皆様のご理解とご協力が必要不可欠です。インターアクト、ローターアクトへのご支援、ご協力を引き続きお願いいたします。

今後も地域社会の発展に貢献するために、一丸となって取り組んでまいりましょう。

以上、会長挨拶とさせていただきます。

【米山記念奨学生紹介及び奨学金授与】



【委員会報告】

環境保全委員会

勝田達也 委員長

6月15日に行われる「りんりんロード清掃作業」についてのご案内です。
作業終了後は「さくらガーデン」で昼食となります。
6月4日申込み締切りとなりますので宜しくお願い致します。

雑誌委員会

磯山貴洋 委員

ロータリーの友5月号及び見どころをレターボックスに配布させて頂きました。内容につきましては、「見どころ」を参考に今月号をよく読んで頂ければと思います。宜しくお願い致します。

【会員卓話】

孫の心臓移植から7年

稲本修一 会員



早いもので孫の心臓移植からまもなく7年になります。その節は土浦南ロータリークラブの皆様にも絶大なご支援を賜りまして誠にありがとうございました。

医療の発達によって、以前は治らなかった病気も、新しい薬が開発されて助かるケースが飛躍的に増えていますが、それでも治らない病気もたくさんあります。

IPS細胞の技術が飛躍的に進めば、自分の臓器を作り出すことができるのかも知れませんがまだまだ先の話のようです。

臓器移植は、薬ではなく、誰かの臓器を移植することによって、絶望的だったその人を希望のある人生へと導いてくれる医療です。

しかし、残念ながら日本では、この分野は非常に遅れています。日本で臓器移植法が施行されてから25年になりますが、ドナーの数がようやく年間100例になったといわれていますが、心臓移植が必要な患者は年間500～1500人といわれています。心臓移植はどちらかといえば緊急を要するものです。国内での移植のみを希望すれば、待っている間に命を落とす、そういうケースが多いのが現実なのです。日本以外の国は全て自国内で移植がなされています。

一方アメリカでは臓器提供についての法律があって、ドナーから提供された臓器の5%は外国人に提供してもよいという法律で、それに望みを抱いて日本の患者はアメリカに行く訳です。しかし、そこには超えなければならないハードルがあります。それは費用です。保険のきかない心臓移植手術は膨大な費用をはらわなければなりません。うちの孫の場合は、渡航費用5500万円（人工補助心臓完備のチャーター機）、デポジット（病院に払う費用の前渡金）2億2千万円、滞在費等合計で3億1千万円でした。

この金額は個人ではどうしようもありません。幸いにも息子の友人達が「ひろくんを救う会」を立ち上げて下さって、2016年12月末に募金活動がスタートしました。

私もかわいい孫のためにと、初日から街頭募金に参加しました。私はこれまでも赤い羽根募金とか災害の募金活動に参加した経験がありますが、今回は孫の心臓移植のための募金です。それも3億円を超える募金活動です。皆さんも募金活動を経験したことがあるかも知れません。私も募金するときは100円とか500円玉、思い切っても千円くらいかな、という感じです。ですから2時間ぐらい呼び掛けてもせいぜい数万円でしょう、例えば5万円とすれば、6000

回以上しないと3億円には到達しない計算です。毎日活動しても16年かかる。孫の命はそんなに待ってはくれない。そんな計算をすると若干弱腰になり道行く人に声をかけるのも力が入りませんでした。

そんな私の前にひとりの若いお母さんが4・5歳くらいの男の子の手を引いて、財布をとりだし、千円札を入れようとして小声で話すのです。「この子は小児ガンで今治療中です。」顎のあたりを指しながら「ここに放射線治療をしていて治ったとしても顔がゆがんでしまうのです。」さらに「夫の暴力でまもなく離婚するんです。」と涙を浮かべながらも募金箱にお金を入れて下さいました。こんなご本人としては大変厳しい状況の中でも他人の子どものために貴重なお金を入れて下さる。その方の一連の行動に、私は、頭をハンマーで殴られたような衝撃を受けました。同時にこの小さなお子さんを抱きしめてやりたい衝動にかられました。大事なわが子がこんな状況なのに、夫婦関係が破局寸前の中で。それなのに全く知らない赤の他人の孫のために募金をして下さる、その崇高な愛の行動を目の当たりにして、私はその時、自分の孫のために死ぬ気で頑張ろう、と決心しました。まさにそれは神様が与えてくれた出会いでした。

それ以後は、誰よりも大きな声で、たとい声がつぶれてもいい覚悟で腹の底から2時間から3時間ぶっ通しで呼び掛けることができました。一緒に手伝って下さった方が、「稲本さんはよく声が通りますね」と誉めて下さいました。一度も声が枯れることはありませんでした。オヤジバンドでボーカル担当していたのが役に立ったのかも知れません。

年が明けて、1月は元旦の朝から亀有駅前で寒風吹きすさぶ中の募金活動です、1年位前に心臓移植をしたいちくんのおじいちゃんとお父さんお母さん、それに地元のボランティアの方が申し出て手伝って下さいました。本当にありがたかったです。そんな活動が前の年のクリスマスから翌年の5月初めまで、休日と土・日は必ず、ある時は水戸駅、ある時は柏駅、おたかの森駅、有楽町駅前、上野動物園前、イオンショッピングセンター、土浦卸売り市場の朝市等々、その時々10数名の方が手伝って下さいました。

つくばの西武の近くで夕方募金活動をしていましたら、お母さんといっしょに来た小学生のお子さんが大きな豚の貯金箱ごと下さいました。4万円も入っていました。また、私の前に来られた腰のやや曲がったおばあちゃんが、「ごねんね、今日はあまりなくって」、といいながら財布をひっくり返し1万円札の混じったお金をいれて下さり、また来るからね、と去っていかれました。私は、そんな崇高な姿に何度涙したかわかりません。

有楽町駅前での募金活動のことをお話しします。有楽町駅前ではものすごい人が行き交いますが、その割に反応が悪く、ちょっと落胆していたとき、ひとりの紳士がプラカードを掲げていた息子に近づき、「これ、あなたの息子さん？」と聞かれ、そうですと答えたら、「これ、使ってください」と紙袋を下さりそのまま立ち去って行かれました。家に戻って包み紙を空けたら、なんと100万円の札束が入っていました。

私はロータリークラブをはじめ印刷業界の団体やYMCAなど全国組織の団体のメンバーだったので、毎日毎晩支援要請の手紙を書き続けました。ロータリークラブだけでも2000クラブ以上あります。ネットで住所を調べて書きまくりました。ボランティアの方々にも手伝っていただきました。そしてたくさんのクラブから応援のメッセージとともに募金をいただきました。

ある時、救う会のメンバーに福井県出身の方がいて、福井の駅前で募金活動をする事になり、それを聞いた片岡パストガバナーが福井ロータリークラブにいらっしゃるロータリー財団RRFCで一緒に活動しておられるガバナーに連絡して下さり、福井ロータリークラブとロータリーアクトクラブのメンバーが募金活動に加わって下さいました。その模様がテレビで放映され、翌日の募金活動では、電車に乗ってわざわざ募金して下さい方がたくさんおられて、おかげさまで予想をはるかに上回る募金を頂戴しました。

パシフィコ横浜で毎年行われているゴルフフェアでは中島常幸プロにトークショーの合間を

ぬって募金活動を手伝っていただきました。中島プロは入場者と記念写真を撮って、募金箱に千円以上入れてね!と声かけしていただくと効果てきめん、あっという間に数十万円いただきました。募金活動の輪は横浜、甲府、名古屋、神戸へと広がっていきました。

ある時、大分県の刑務所から1通の現金書留が救う会の事務所に送られてきました。中を開けてみると1万円札と短かい手紙が入っていました。そこには、受刑者からの募金にご迷惑でしょうから、事務所の費用にでも使ってください。と書いてありました。これにも涙しました。このような当初想像もしていなかったことが次々起こりましたが時間の関係で省略させていただきます。

募金活動を始める前に大学の講堂をお借りして説明会を開催した際、トリオジャパンという募金活動のノウハウを教えるスタッフの方が、過去の事例を紹介して下さい、日本の皆さんの善意を信じて下さい。必ず目標を達成します。とのことばをその時は半信半疑で聞いていましたが、果たして、たった4カ月半で目標の90%、2億8千万まで達しました。仰るとおり、善意に満ちた人々がたくさんいらっしゃることを実感いたしました。

ここまで来ると、渡航準備にかからなければなりません。まずは人工補助心臓が設置されているチャーター機の手配から始めましたが、整備の関係で少し遅れるとのことでした。

いつ頃飛行機が来るのかやきもきしていたところ、孫が入院していた東大病院から電話がかかってきました。「ドナーが現れました。すぐ来て手続きをして下さい」とのこと。その時私は頭がくらくら、胸はドキドキ。あの時の興奮は一生忘れることはないでしょう。

翌朝息子と自宅を出発、病院の待合室で待つこと4時間。心臓はドナーから摘出されて4時間以内に移植しなければならないそうで、東大病院の先生がドナーさんが入院する病院に行って摘出し、チャーター機、ヘリコプターを乗り継いで、10時頃病院に着くということでした。待合室で待っていると病院の上空でパタパタというヘリコプターの羽音が聞こえ、10時きっかりに移植手術が始まり10時間の予定が8時間で無事終了しました。執刀医の先生が私たちの部屋に来て下さり「何の問題もありません。摘出した心臓が癒着していましたが、綺麗に処置しました」とのこと。息子と嫁さんのご両親と共に喜び合いました。

勇気をもってわが子の心臓を提供して下さい、ドナーのご両親のことを思うと手放しで喜ぶことは複雑な気持ちにもなりますが、ドナーのお子さんの心臓が孫の中で生き続けるということは、ご両親にとっても慰めになるのではと考え、いただいた新しい命を大切に育てることが、恩返しになることではないかと思っています。

日本では、ドナーのご家族との連絡は一切禁じられておりますが、アメリカではオープンで、ドナーの家族が移植を受けた本人の結婚式に参加するというケースがあるようです。

いただいた2億8千万円の募金は、救う会によって同じ時期に各地で募金活動をしていた5つの団体に分配させていただきました。県内では笠間市のさおりさんという方の救う会に分配させていただきました。

幸いなことに5人共、程なく目標を達成し、全員アメリカに渡って移植を終え全員元気に帰国なさいました。私の孫のためと思って募金して下さいの皆様のご善意が、私の孫と5人の方の命を救う大きな力になったということは、本当に予想もしない結末でした。

日本の国民皆保険制度は、保険料を払っているときは高いな、と思っていましたが、今回の孫のことで、アメリカの3億円に比べれば殆どただに近い、本当にありがたい制度だと思いました。摘出した病院からジェット機、そしてヘリコプターで心臓を運ぶ費用500万円もなんと全額社会保険が適用されました。

また、移植後は、月1回は必ず検診を受け、毎日免疫抑制剤を服用しなければなりません。心臓に限らず他人からいただいた臓器は何年経っても同じDNAにはならない、体は常に異物としてその臓器を攻撃するらしいのです。その攻撃から臓器を守るのが免疫抑制剤なのだそうです。この薬は一生飲み続ける必要があります。孫が移植を受けて1年ぐらい経ったとき、あ

る会でこのようなお話する機会がございまして、その時メインの講師の先生が免疫抑制剤の話をして下さいました。当初の免疫抑制剤は移植後の生存率が低かったようですが、近年なんと筑波山の山麓の土から発見された物質により作られた免疫抑制剤が今や世界の8割の患者が使っているとのことでした。

孫は毎月1回東京の病院で検査を受けていますが、いつもパーフェクトといわれています。本当にありがたいことです。

最後に、日本の臓器移植の現状をお話します。人口100万人あたりの臓器提供者数ですが、アメリカは41.6人、ドイツが10.34人、韓国が7.88人、日本はなんと0.62人だそうです。日本の人口1億2千万人で計算するとたった100前後です。

心臓移植に限ると80件弱だそうです。国内での移植を待っている人が約900人近くいます。国内での移植のみを待っている方の多くは残念ながら命を落としているのが現状です。

日本での臓器提供者を増やすには、臓器提供意思表示カード、運転免許証、マイナンバーカードなどで臓器提供の意思表示をすること。それを家族に伝えておくことが私たちにできること。臓器移植をできる病院が限られているので、それを増やすこと。少なくとも日本の9倍提供者がいる韓国に近づく努力と法整備をしていかないと、アメリカに頼らざるを得ない状況が続きます。最近は大安とアメリカの物価高で5億円を超える費用がかかるようです。

かけがえのない命。正月早々能登で起きた地震で多くの命が失われましたが、臓器移植にしても震災にしても決して他人事ではない。今、こうして生かされていることに感謝して歩みたいと思います。ありがとうございました。